

議会運営委員会 行政視察調査報告書

- 1 視察日 2019年8月7日（水）～8日（木）
- 2 視察先 〇岡山県井原市
調査事項 ・議会改革の取り組みについて
〇徳島県小松島市
・議会改革の取り組みについて
- 3 視察者 副委員長 伊藤 仁
委員 上田 倫久
委員 木谷 敏勝
委員 竹中 理真
委員 西田 真男
議長 村岡 峰男
副議長 関貫 久仁郎
議会事務局 井上 正治
松本 幹雄



井原市議会で説明を聴く委員



井原市議会議場にて



小松島市議会で説明を聴く委員



小松島市議会議場にて

日 時	2019年8月7日(水) 午後1時00分～午後3時00分
視 察 先	岡山県井原市
調査項目	議会改革の取り組みについて
調査内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 議会基本条例の検証(外部評価の方法等) 2 政策提言書(概要、フィードバック等) 3 広聴の取り組み(市民の声を聴く会、意見交換会、議会への提案箱等) 4 その他の議会改革
所 感	<p>【議会基本条例の検証】</p> <p>毎年、大学准教授による外部評価を受けて議会基本条例の検証を行い、ホームページで公表している。</p> <p>本市議会では、今年初めて議員自らのチェックにより同条例の検証を行った。一般的に外部評価により厳しい評価が得られることを踏まえ、一度、第三者の専門家による評価を受けて、課題を認識することは有用であり、検討してみる必要がある。</p> <p>【政策提言書】</p> <p>常任委員会ごとにテーマを決めて所管事務調査を行い、全員協議会での協議を経て、「赤ちゃんの駅事業」等の政策提言書を作成。それを基に議長から市長に政策提言を実施。提言に対する執行部の対応状況については、常任委員会の所管事務調査や一般質問で確認を行っている。</p> <p>本市議会では、各委員会要望・意見として執行部に提案しているが、議会総意の政策提言書としてまとめ上げ、議長から市長に提言する方法の検討も必要である。所管事務調査を政策提言、さらに条例制定へとつなげていく観点も重要である。</p> <p>【広聴】</p> <p>「市民の声を聴く会」を市内13校区で8年間実施している。ワークショップ方式を取り入れ、事前に各会場ごとにテーマを選定。議員は個人の意見を述べるができる。参加者の偏り、地域の限定等の課題がある。</p> <p>主権者教育の一環で高校生との座談会を開催し、小グループに分かれ、生徒の質問に議員が回答する形式で意見交換を実施。PTA連合会母親委員会との意見交換会なども開催。議会への提案箱を市内24か所に設置し、出された提案については委員会で協議し、議長名で回答。CATVで議会の生中継を実施。</p> <p>本市ではCATVは市民負担を考えると導入できないが、インターネット配信のさらなる充実を図るべきである。市民に開かれた議会にしていくためには、これら幅広い広聴活動を参考にすべきである。</p> <p>【その他】</p> <p>議長・副議長選挙は立候補制を採用。所信表明は全員協議会で行い、本会議の選挙とともに、CATVで生中継している。市民にとってわかりやすく、立候補者が所信表明する良さもあり、検討してみる必要がある。</p>

日 時	2019年8月8日(木) 午後1時00分～午後3時00分
視 察 先	徳島県小松島市
調査項目	議会改革の取り組みについて
調査内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 通年会期(運用状況、評価、課題) 2 予算決算常任委員会による事務事業評価(概要、評価結果の活用方法等) 3 議会モニター(実績、評価) 4 高校生とのタウンミーティング(概要、評価、課題) 5 ふれあい市議会コンサート(実施状況、評価、課題) 6 その他の議会改革
所 感	<p>【通年会期】</p> <p>通年会期のメリットは、閉会期間という活動能力の中断がなくなり、①災害への速やかな対応、②委員会活動の活性化(閉会中の継続審査手続きを要しない)、③専決処分の減少などが挙げられる。会期は5月1日(4月が一般選挙のため)から翌年4月30日までで、定期的な会議は年4回開催。</p> <p>通年会期の導入については、メリットと併せて、議会日程の流動性、議会活動のメリハリ等の課題も含めて検討が必要である。</p> <p>【事務事業評価】</p> <p>財政非常事態宣言を契機に、予算決算常任委員会で毎年20事業程度を対象に事務事業評価を実施。各議員は対象事業を評価して評価シートを作成。予算決算常任委員会はそれを基に審査して議会評価報告書を作成し、執行部へ提出。執行部は、予算反映等改善書を議会に提出する。</p> <p>事務事業を適正かつ効果的に執行していく上で、議会の評価と執行部の予算反映等のサイクルを確立することは重要である。</p> <p>【議会モニター】</p> <p>政策提案機能を強化するため「小松島市議会モニター」(定員20名以内)を設置し、市民からの要望、提言、意見を聴取。議会を傍聴して意見をもらい、それに対して議会から回答していく仕組みとなっている。モニターの傍聴により、議会側も理事者側も緊張感ある議論の醸成につながっていると推察される。</p> <p>【高校生とのタウンミーティング】</p> <p>市内の高校2校の生徒17名を招き、「小松島の未来」をテーマにタウンミーティングを開催。若者の定住を促進する観点からも有効な広聴活動である。</p> <p>【ふれあい市議会コンサート】</p> <p>定例議会ごとに演奏者を募集し、議会開会中の昼休みに演奏会を開催。無報酬で演奏道具等も各自で持参してもらおう。応募者の継続的な確保が課題。</p> <p>本市議会ではインターネット配信を行っているので、演奏者の発表の場の提供と新たな傍聴者の広がりにつながる可能性を感じる。</p> <p>【その他】</p> <p>30歳代から年代ごとに議員が存在。通年議会で兼業も厳しいと思われるが、全国的に議員のなり手不足が叫ばれる中、その理由を分析してみる価値がある。</p>